

令和3年1月24日に「宮城県考古学会古墳・古代研究部会」および「宮城県考古学会中近世部会」をオンラインで実施いたしました。

述べ20名の参加があり、詳細は以下の通り。

開会挨拶 古川 中近世部会長 開催趣旨として、オンライン開催になった経緯について説明した。

①及川 謙作 陸奥国府における造瓦技術の受容と変遷(1) 一郡山遺跡の瓦を中心に一

郡山遺跡の概要と研究史の整理をした後、近年の調査事例を追加して瓦の系譜について再検討したもの。質疑応答では渡邊泰伸氏から瓦生産の技術は地域で受け継がれていくものではなく、必要な時に必要な工人を集めて行うものだったのだろう、という指摘がなされた。

②館内魁生 形と色からみる宮城県域の12世紀の京都系土器

京都系土師器の研究史をその編年論から分布論、使用法と丁寧に整理し、その導入の様相について、情報のみの伝達か、在地の職人が伝習を受けたものかという議論に答えるというもの。京、宮城県内、北東北と分析対象とし、幾何学的測定学の手法と利用したかたちの分析と、色の分析を通じて得られた結果が提示された。古川一明氏と及川謙作氏から色の分析に関する質疑がなされた。

③及川 謙作 市善導寺北側から発見された近世墓

平成30年に緊急調査された近世墓について報告された。限られた時間の中で計測されデータから構築された3Dモデルも示され、立地や絵図資料から伊達綱宗の生母を埋葬した石室の可能性が示唆されている。森田義史氏から周知の埋蔵文化財に登録されていない近世墓の把握と調査に関する方向性について質問がなされた。

最後に総括として辻秀人氏より①と②の双方に共通することとして瓦も土器も本質は「形と大きさ」にあり、技法はそれを実現するための方法であることを意識する必要があることが示された。またオンラインでの研究会という方法についても遠隔地からの参加がしやすいという点など、コロナ禍中にあってはこのような取り組みを続けていくことが重要だと評価された。

小結

- ・京都...扁平な器形
- ・多賀城...京都と器形は似ているがやや高さあり
ナデ幅広い
- ・宮城県その他...やや高さがある ナデ幅広い
- ・平泉...最初は京都と似ているがやや高さあり、その後
平底化、体部が垂直化する
- ・北東北...平底で高さがある ナデ幅広い

